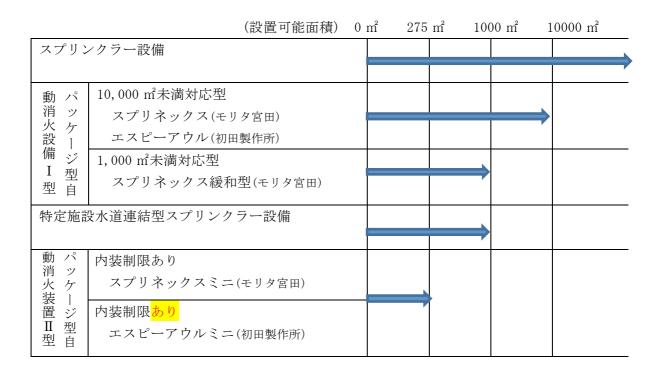
スプリンクラー設置の動向

小規模グループホームのスプリンクラー設備については、これまで季刊グループホーム 48 号(p26)、49 号(p22)でお伝えしておりますので、その内容を確認の上、その後の消防設備の動向についてお読みください。

- ①パッケージ型自動消火設備 I 型 (10,000 ㎡未満対応型) にエスピーアウル (初田製作所) が発売されています。
- ②パッケージ型自動消火設備 II 型については、最近、内装制限を受けない消火容量 320の機種、エスピーアウルミニ (初田製作所) が発売されましたが、現在のところ販売実績がほとんどなく、価格や実際の設計工事費用等がわかりません。
- ③面積が 275 ㎡以下の小規模施設用の機種として、モリタ宮田工業がスプリネックス I 型の小型版を開発しており、容量 1080の機種 (スプリネックスミドル) 発売の準備をすすめているとの情報があります。

現在あるスプリンクラー設備の種類



機種選びにあたっての注意点

水道連結型スプリンクラーは、

○消火を目的としているのではなく、火災を抑制して避難時間を確保することを目的と しているため、避難対応がある程度できる人が多いホームに適しています。

- ○水道管の太さによっては、管に直結できない場合には水槽+ポンプの設置が必要です。ポンプを設置しなければならない場合、ポンプユニット設置のために 1m×1m程度の敷地が必要です。ポンプを設置できない場合はパッケージ型を選択するか、水道管を太くする工事をおこなうかの選択になります。高額の工事が必要になると思われます。
- ○国の施設整備費を使って設置する場合、ポンプユニット加算があります。設計料も必要となりますが、設計料は助成対象となりません。
- ○水道管の太さがギリギリの場合、ポンプを設置する必要はなくなりますが、内装制限があり、内装工事が必要となる場合があります。その場合、内装工事費用がかかることがあります。

パッケージ型自動消火設備は、

- ○火災の消火を目的とした消火剤を使用しています。火災の認識や避難が困難な人が多いホームに適しています。
- 〇 I 型 $(1,000 \text{ m}^2$ 未満対応型)は、本体 1 台を屋内か屋外に設置し、各部屋に配管してヘッドを取り付けます。 II 型は各部屋に本体を設置します。 II 型は部屋ごとに設置する必要がありますので、必要な設置台数が多い場合(概ね 13 台以上)には、II 型の方が I 型より価格が高くなります。必要台数を考慮の上選ぶ必要があります。
- ○スプリネックスミニ (モリタ宮田) には、壁掛け式、収納設置式、床置き式の 3 種類あり、設置場所を部屋の中に確保できることが必要です。スプリネックスミニの設置にあたっては、設置する場所の壁材(天井は不問)が石膏ボード 9.5 mmを使用している内装仕上げ(準不燃)であることが要件となっています。準不燃を満たしていない内装仕上げの場合には、内装工事が必要となります。 Ⅰ型を選択した場合には内装工事が必要ないため、検討してみる必要があります。
- ○320タイプのII型のエスピーアウルミニは床置き式です。内装制限はありませんが、本体が大型になるため、設置場所の確保や設置費用が問題になります。発売されたばかりで詳細についてはわかっておりません。
- ○国の施設整備費を使って設置する場合、パッケージ型自動消火設備にはポンプユニット加算がないため、法人負担分が大きくなる可能性があります。

いずれの場合にも入札価格にはかなり格差が出ています。グループホーム学会のメーリングリストなどで情報交換をしながら、適切な金額で工事できるようにしていく必要があります。

(室津滋樹 日本グループホーム学会)